

6. 林業普及指導

(1) 農林水産技術推進会議森林活用分科会における要望課題検討の採択状況

年 度	要 望 課 題	区 分
平成14年度	1. 房総のヒメコマツの保全について	B
	2. 千葉県における里山林整備指針の作成	B
	3. 樹皮を、ペレット状やボード状に加工しての有効利用の検討	B
	4. 丸太の葉付き乾燥技術の確立と人工乾燥コスト低減に及ぼす影響	B, A
	5. 間伐手遅れ林分の管理技術指針の作成	C→C→B
平成15年度	1. マテバシイ林の管理方針について	C
	2. 低湿地に造成した海岸防災林管理の検討	A
	3. 富津海岸保安林における既設防風施設（防風ネット）の見直しについて	B
	4. 森林土木事業における法面緑化工法の検討	A
	5. マテバシイ林の防災的見地からの適正管理	C

注) 区分（平成14年度から採用区分が変更）

A 新規課題として採用する

B 新規課題として採用しない

C 現地調査のうえ検討する

D 技術調整部会に付託する

平成16年度	1. 第54回全国植樹祭の植樹会場で造成した森林の今後の調査・検討	A2
	2. 省力・低コストな森林造成技術の開発	C
	3. 木質バイオマス資源の再資源化システムの検証及び生産される炭化物の性能分析・用途開発	C
	4. 木材の燻煙乾燥技術について	A2
	5. マテバシイ林の防災的見地からの適正管理	A2
平成17年度	1. 原木シイタケの新しい害虫フタモントンボキノコバエの防除法の開発	A2
	2. 森林療法プログラムの作成及び効果検証	A2
	3. 九十九里海岸保安林におけるクロマツの天然更新技術の確立	B
	4. マッシュルームの害虫対策について	A2
	5. 木質バイオマス資源（製材残材、果樹・街路樹剪定枝、林地残材等）の再資源化（炭化処理）システムの検証及び生産される炭化物の性能分析・用途開発	B→A3, A2
	6. 省力・低コストな森林造成技術の開発	B→A3
平成18年度	1. サンプスギ材の強度試験	A1
	2. 針葉樹間伐材を利用したキノコ（ナメコ）栽培試験	C
	3. 竹材の利活用について	B
	4. 千葉県における竹林の拡大への対応について	A1, B
	5. 荒廃森林の及ぼす影響と将来予測について	A3
	6. 森林の公益的機能の評価の見直しについて	B→A3
	7. 有害獣被害対策技術の確立	A2
	8. 鳥獣被害を受けにくい作物の選定	A2
	9. 鳥獣被害を受けにくい集落の環境づくり	A2
	10. マテバシイとイノシシを活用した地域特産品開発	B
	11. 九十九里海岸保安林におけるクロマツの天然更新技術の確立	B→C
平成19年度	1. 木質チップを燃料とした施設園芸の経済性に関する研究	C
	2. 有機肥料によるたけのこ栽培に関する生産技術指針の作成	A3
	3. 放置竹林の効果的な拡大防止と森林の再生	A3
	4. 県民の森を用いた森林療法プログラム実施のための森林環境づくりとコース設定の研究	A2
	5. なしのせん定枝を利用したたけのこの栽培技術の開発	A1
	6. サンプスギ製材品の強度及び病原菌のその後の活動について	
	① サンプスギ製材品の強度試験	A1
	② 非赤枯性溝腐病付着材の製品における病原菌の活動	A1
	③ 非赤枯性溝腐病付着剤が人体に及ぼす影響	C
平成20年度	1. 「ビタミンB1いっぱいきのこ」栽培技術の追加試験	
	① 「ビタミンB1いっぱいきのこ」の追加施用技術開発	A3
	② 「ビタミンB1いっぱいきのこ」技術の「原木シイタケ」への適用	A3
	2. 廃培地を使用した菌床きのこ栽培技術の開発	A3

平成21年度	1. 木質バイオマスの効率的な生産・流通システムの構築に向けた調査研究	A 1
	2. 千葉県における長伐期林業の成立に向けた生産目標の設定と施業基準の策定	C、B
	3. サンプスギ心材の強度性能及び耐久性能の解明	C
	4. 千葉県における放置竹林対策について	A 3、A 2
	5. 高齢級過密森林の管理手法と強度間伐導入基準の確立	A 3
	6. マテバシイ材の活用方法とマテバシイ林管理技術の確立	A 2、C、 A 3
	7. マテバシイ林の伐採と更新	A 3
	8. 松くい虫被害に強い「抵抗性クロマツ」の選抜・育種	A 2
	9. 千葉県に適した無花粉スギの育種	A 1
	10. スギ非赤枯性溝腐病抵抗性クローン選抜のための早期検定技術開発	A 1
	11. スギカミキリの被害対策について	A 1、C
	12. スギカミキリ被害の経済的・効率的防除方法	A 1
	13. 北総地域特有の地形に対応した効率的な伐採・搬出技術の開発	B
	14. ヤマビルの生理生態的研究開発による効果的な防除法	C
	15. 九十九里海岸防災林におけるクロマツの代替樹種の選定等施業方法の策定	A 2
	16. 在来草本種による法面緑化手法の確立	A 3

注) 区分 (平成16年度から採用区分が変更)

A1 新規課題として採用する

A2 現在実施中の研究課題で対応する

A3 現地において問題解決する

B 現地調査のうえ検討する

C 新規課題として採用しない

(2) 農林総合研究センター森林研究所における平成21年度試験研究課題一覧表

I 農林水産業の生産力向上

- (1) 生産を高めるための栽培・飼育・繁殖・養殖等、千葉県独自の生産技術体系の開発
 - 11 農林作物の野生鳥獣被害対策軽減化技術の開発
 - 2 森林・林業に対する獣類被害実態の解明と被害軽減化技術の検討
 - ① 森林・林業に対する獣類被害実態の解明と被害軽減化技術の検討 (18～21)
 - 12 特用林産物の安定生産の確立
 - 1 きのご栽培におけるキノコバエの被害防除技術の確立
 - ② 原木シイタケの害虫フタモントンボキノコバエの生態の解明と防除技術の開発 (17～21)
 - ③ 菌床きこのキノコバエ類の被害防止技術の確立 (17～21)
- (2) 生産性向上を支える品種の改良開発
 - 19 林業用種苗の安定生産技術の確立
 - 1 林業用優良品種の選抜と特性把握
 - ④ 林業用優良品種の選抜と特性把握 (18～22)
 - ⑤ 森林の諸機能発揮に適した樹種の選抜 (18～22)
 - ⑥ 花粉の少ないヒノキの選抜 (13～22)

II 県民生活を守る環境に調和した農林水産業の推進

- (1) 県民の暮らしを守る環境保全型農林業技術の開発
 - 25 スギ・ヒノキ花粉の飛散抑制技術の確立
 - 1 スギ若齢林の間伐による花粉飛散抑制技術の確立
 - ⑦ スギ若齢林の間伐による花粉飛散抑制技術の確立 (19～22)
 - 2 花粉飛散量予測技術の確立
 - ⑧ 花粉飛散量予測技術の確立 (13～22)
 - 3 雄花量に着目したスギ林の間伐効果の科学的検証
 - ⑨ 間伐方法の違いが雄花生産量に与える影響の評価 (20～22)
- (2) バイオマス等の有効利用技術の開発
 - 27 地域資源・未利用資源のリサイクル技術の開発
 - 1 未利用木質バイオマスの利活用
 - ⑩ サンプスギ非赤枯性溝腐病罹病部の強度及び病原菌の活動 (20～22)
 - ⑪ ナシ剪定枝等を利用したきのご栽培技術の開発 (20～22)

IV 農林水産資源の維持増大とその持続的利用

- (1) 農林水産資源の維持管理技術の開発
 - 32 森林の病虫害対策技術の確立
 - 1 環境にやさしい松枯れ防止技術の開発
 - ⑫ 環境にやさしい松枯れ防止技術の開発 (20～22)
 - ⑬ マツノマダラカミキリ発生予察調査 (13～22)
 - 2 浸透移行性薬剤を使用した塗布等による害虫防除技術の開発
 - ⑭ 浸透移行性薬剤を使用した塗布等による害虫防除技術の開発 (18～22)

VI 県民の暮らしを豊かにする農林水産業の有する多面的機能の発揮

(1) 森林・農地・水域の持つ多面的機能の評価と維持増進技術の確立

39 森林の水土保全及び防災機能維持増進技術の確立

1 海岸低湿地に造成した海岸防災林管理技術の確立

⑮ 海岸低湿地に造成した海岸防災林管理技術の確立（16～22）

2 海岸防災林に混生するニセアカシアの管理方法の検討

⑯ 海岸防災林に混生するニセアカシアの管理方法の検討（18～22）

40 森林環境の保全及び森林の活用技術の開発

1 里山の利用目的別整備技術の確立

⑰ 里山の利用目的別整備技術の確立（13～22）

2 竹林拡大過程の解明と対策の検討

⑱ 竹林拡大過程の解明と対策の検討（19～21）

(2) 農山漁村の持つ保健休養・やすらぎ機能等の促進技術の開発

42 森林療法に効果的な森づくり技術の開発

1 森林療法に効果的な森づくりの方向性の検討

⑲ 森林療法に効果的な森づくりの方向性の検討（17～21）

注1) I～VIは県農林水産業試験研究推進方針（平成18年度～22年度）の基本目標、(1)～(3)は推進方針中の重点化の方向、11、12・・・は推進方針中の大課題

注2) ①～⑲は研究課題、()内は研究期間

(3) 平成21年度林業普及指導員の活動実績

(単位：時間)

区分	普及指導活動				調査研究	情報収集	連絡調整		普及指導の準備	普及指導関係の普 及指導事 報	研修 受講	その他	計
	直接		間接 (電話等)	小計			試験研究・教育機関	市町村その他の関係機関					
	個別指導	集団指導											
計	3,088	2,427	775	6,290	288	933	179	1,704	5,725	668	708	2,520	19,015
普及対象別 内訳	林家	1,876	364	465	2,705								
	会社等の事業体	153	317	36	506								
	市町村	98	53	55	206								
	森林組合	421	81	38	540								
	林研グループ	234	355	107	696								
	その他	306	1,257	74	1,637								

注) ・平成16年度の森林法改正により、平成17年4月から従来の林業専門技術員と林業改良指導員の資格が「林業普及指導員」に一元化された。

・平成21年度の林業普及指導職員数は、普及指導員10名である。

(4) 平成21年度林業普及指導職員を対象とした研修

研修の名称	目的等	対象者	人員	時期	場所	講師	研修等の内容
特技研修	森林バイオマスの利用の知識習得、提案型集約化施業と合意形成法の習得及び架線集材方法の知識習得	林業普及指導員	10人	H21.7.1	農林総合研究センター森林研究所	・中山指導員 ・青木上席指導員 ・恵指導員 ・今関上席指導員	・林野庁が実施した森林バイオマスの利用、合意形成の手法、提案型集約化施業、架線集材の研修について受講した指導員からその内容について説明を受け、指導員間で共有を図った。
	JAS規格の知識の習得	林業普及指導員	10人	H21.11.9	千葉県木材市場協同組合	・今関上席指導員 ・木材市場子安部長	・木材の知識を深めるため素材及び製材品のJAS規格の知識を習得する
	チェーンソーの基本操作と掛かり木処理技術の向上	林業普及指導員	7人	H21.12.4	君津市六手	・鈴木指導員	・チェーンソーの取り扱い、かかり木処理に用いる各種の道具の使い方についてその技術を習得した。

(5) 千葉県指導林家・林業士認定状況

(単位：人、平成22年3月31日現在)

普及指導区名	指導林家	林業士	計	備考
千葉	8	10	18	女性1名(林業士)
東葛飾	1	1	2	女性1名(林業士)
印旛	6	6	12	
香取	1	6	7	
海匝	2	3	5	女性1名(林業士)
山武	7	12	19	女性1名(林業士)
長生	8	5	13	女性1名(林業士)
夷隅	8	4	12	女性1名(林業士)
安房	8	7	15	女性1名(指導林家)
君津	5	10	15	
計	54	64	115	女性7名

(6) 林業機械・器具の現況

番 号	機 械 種 名		備 考	単 位	地方公共	
					団 体	学 校
1-1	索 道	索道重量式		セット	-	-
1-2		索道動力式		セット	-	-
2-1	集 材 機	小型集材機	動力10ps未満	台	1	-
2-2		大型集材機	動力10ps以上	台	1	1
3	モノケーブル		ジグザク集材施設	台	-	1
4	リモコンウィンチ		リモコン、ラジコンによる可搬式木寄せ機	台	1	-
5	自走式搬器			台	2	-
6	モノレール		懸垂式含む	台	-	1
7-1	運 材 車		動力20ps未満のもの	台	-	-
7-2			動力20ps以上のもの	台	4	1
8-1	ホイールタイプトラクタ		林内で集材等の作業を行うホイールタイプのトラクタ	台	-	-
8-2	クローラタイプトラクタ		上記でクローラタイプのもの	台	-	-
9	育林用トラクタ		主として地拵え等の育林作業用	台	-	-
10	フォークリフト			台	4	-
11	フォークローダ			台	-	-
12-1	クレーン	運材機能なし	トラッククレーン、ホイールクレーン等	台	2	-
12-2		運材機能あり	クレーン付きトラック	台	-	1
13-1	グラップル	運材機能なし	グラップルローダ作業車	台	-	-
13-2		運材機能あり	グラップルローダ付きトラック	台	1	-
14	トラクタショベル		搬出、育林用等に係わる土工用	台	-	-
15	ショベル系掘削機械		搬出、育林用等に係わる土工用	台	2	-
16	チェーンソー			台	59	5
17	チェーンソーリモコン装置		リモコンチェーンソー架台	台	-	-
18	刈払機		携帯式刈払機	台	33	5
19	植穴堀機			台	-	-
20	動力枝打機		自動木登り式	台	2	1
21			背負い式等の上記以外のもの	台	-	-
22	苗畑用トラクタ			台	-	1
23	樹木粉碎機		伐倒木、伐根、枝条等を粉碎する機械	台	1	-
24	フェラーバンチャ		立木を伐倒、集積する自走式機械	台	-	-
25	スキッド		牽引式集材専用のトラクタ	台	-	-
26	プロセッサ		枝払い・玉切りする自走式機械	台	1	-
27	ハーバスタ		伐倒・枝払い・玉切りする自走機械	台	-	-
28	フォワーダ		積載式集材専用車両	台	1	-
29	タワーヤーダ		元柱を具備した自走式機械	台	2	-
30	スイングヤーダ		簡易索張方式に対応し、かつ旋回可能なブームを装備する集材機械	台	-	-
31	その他の高性能林業機械		従来の高性能林業機械上記7機種以外の高性能林業機械	台	-	-
32	グラップルソー		巻立・玉切り自走式機械	台	1	-

注) 対象の林業機械は、主として伐採、搬出、育林に使用されるもの。(製材工場で使用されるものは含まない。)

(平成21年3月31日現在)

所 有 区 分 別 数 量							
会 社	森林組合	その他組合等		集 落	研究機関	個 人	合 計
		支援センター	その他				
28	-	-	-	-	-	3	31
1	1	-	-	-	-	-	2
21	3	-	-	-	1	33	59
21	2	-	-	-	-	11	36
-	1	-	1	1	-	10	14
1	7	-	-	-	-	15	24
2	1	-	-	-	-	-	5
-	-	-	-	-	-	-	1
11	6	-	7	-	-	41	65
1	1	-	-	-	-	60	67
-	1	-	-	-	-	2	3
2	-	-	-	-	-	-	2
-	-	-	-	-	-	1	1
101	7	-	-	-	1	39	152
22	1	-	-	-	-	2	25
19	-	-	-	-	-	5	26
94	9	-	-	-	-	32	136
20	3	-	-	-	-	3	26
3	2	-	-	-	-	4	10
6	-	-	-	-	-	1	7
21	8	-	4	-	-	28	63
716	72	7	84	3	4	3,181	4,131
-	-	-	-	-	-	-	-
235	49	-	17	-	5	4,394	4,738
1	4	-	-	-	-	1	6
-	13	-	4	-	1	65	86
-	2	-	-	-	-	6	8
-	-	-	-	-	1	6	8
10	4	-	-	-	1	1	17
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	1
-	-	-	-	-	-	-	-
-	1	-	-	-	-	-	2
-	-	-	-	-	-	-	2
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-	-	4

(7) 平成21年度教育の森の利用状況

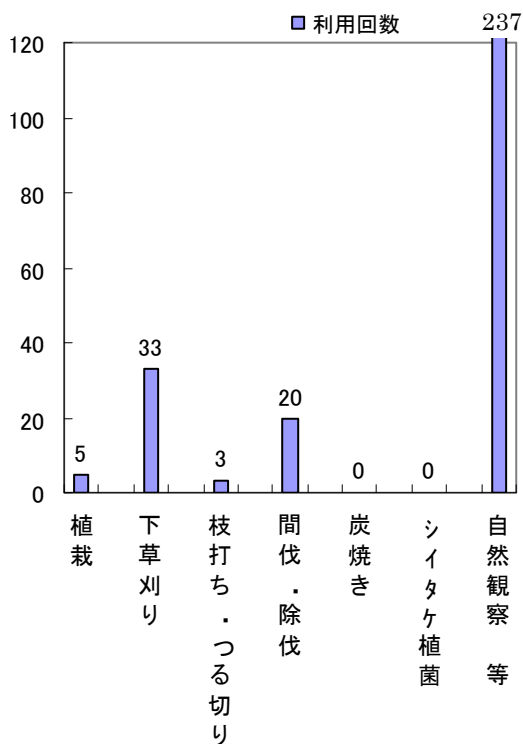
(平成22年3月31日現在)

農林振興センター名	利用回数			利用人数		
	学校の利用	その他の利用	計	学校の利用	その他の利用	計
千 葉	0	104	104	0	845	845
東 葛 飾	1	13	14	5	159	164
印 旛	1	1	2	59	10	69
香 取	3	0	3	99	0	99
海 匝	7	3	10	184	154	338
山 武	1	16	17	18	261	279
長 生	0	33	33	0	385	385
夷 隅	13	0	13	1,231	0	1,231
安 房	0	7	7	0	51	51
君 津	95	0	95	4,977	0	4,977
計	121	177	298	6,573	1,865	8,438

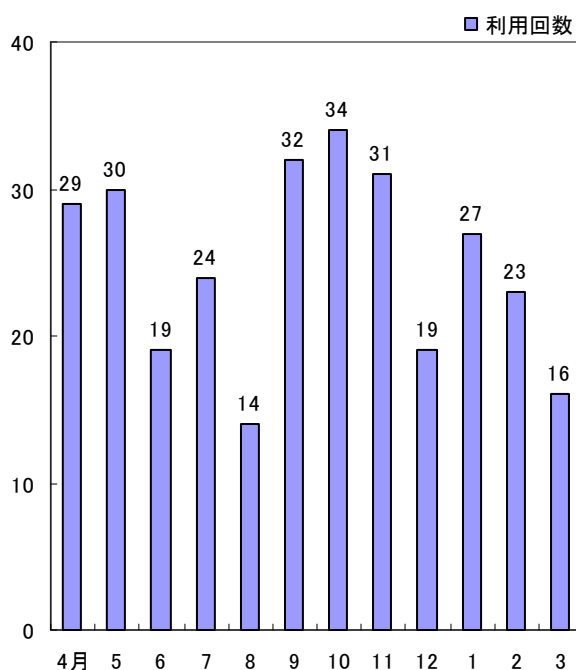
注1) 学校の利用は主として授業時間での利用

2) その他の利用とは1) 以外の利用を指す

【利用形態別内訳】



【月別利用実績】



(8) 教育の森の認定数

(平成22年3月31日現在)

農林振興 センター名	年度別認定数																	
	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	累計
千 葉						(4)	(3)	(3)	(2)	(1)	(3)	(3)	(3)	(2)	(1)	(3)	(2)	
	4	3	3	2	1												1	12
東 葛 飾						(2)	(2)				(2)	(2)				(3)	(2)	
	2	2	—	—	—						1							5
印 旛						(5)	(4)	(2)	(1)	(2)	(4)	(3)	(2)			(12)		
	5	4	3	2	2				1									12
香 取						(4)	(3)				(6)	(3)		(1)	(1)	(4)		
	4	6	2	1	—		2		1		1	1						6
海 匝						(3)	(3)		(2)	(1)	(3)	(2)				(1)		
	3	3	—	2	1						1	1			1			2
山 武						(4)	(5)		(1)	(1)	(5)	(6)		(2)	(1)	(5)	(4)	
	5	5	1	2	1	1	1		1		1				2			14
長 生						(5)	(5)	(2)	(2)	(1)	(4)	(3)	(2)	(2)	(1)	(4)	(4)	
	5	5	3	2	1								1	1		1		15
夷 隅						(1)	(3)	(1)		(1)	(1)	(1)	(1)		(2)		(1)	
	2	4	1	—	1					1								4
安 房						(5)	(4)	(2)	(1)	(1)	(4)	(3)	(1)	(1)	(2)	(3)	(3)	
	5	5	2	2	1			1		1								10
君 津						(4)	(4)	(4)	(3)	(1)	(6)	(5)	(4)	(3)	(1)	(5)	(5)	
	4	4	4	3	1	2	1				1				1			19
計						(37)	(36)	(14)	(12)	(9)	(38)	(31)	(13)	(11)	(9)	(40)	(21)	
	39	41	19	16	9	3	4	1	3	2	5	2	1	1	4	1	1	99
累 計	39	80	99	115	124	125	124	120	119	121	124	117	115	113	114	106	99	

注) 上段 () 書は、再認定数である。

(9) 教育の森の利用実績の推移

農林振興 センター名	年度別利用回数								年度別利用人数							
	5~15	16	17	18	19	20	21	計	11~15	16	17	18	19	20	21	計
千 葉	186	5	24	181	343	90	104	933	1,305	97	189	1,288	1,641	576	845	5,941
東葛飾	11	6	7	13	13	13	14	77	338	158	310	230	233	160	164	1,593
印 旛	82	9	0	3	4	4	2	104	7,707	473	0	338	431	277	69	9,245
香 取	14	1	5	6	7	7	3	43	200	10	223	210	330	252	99	1,324
海 匝	21	0	1	1	3	6	10	42	281	0	10	15	170	192	338	1,006
山 武	129	8	11	9	22	14	17	210	2,810	466	310	634	649	388	279	5,536
長 生	34	17	21	20	18	26	33	169	1,289	510	616	666	562	540	385	4,568
夷 隅	35	13	13	13	13	13	13	113	1,851	2,055	2,462	2,046	1,664	1,231	1,231	12,540
安 房	26	14	11	9	6	7	7	80	621	135	127	102	41	56	51	1,133
君 津	342	77	120	91	94	58	95	877	20,367	3,585	4,925	4,057	3,378	2,707	4,977	43,996
計	880	150	213	346	523	238	298	2,648	36,769	7,489	9,172	9,586	9,099	6,379	8,438	86,932

注) 平成10年以前の利用人数はデータがなく不明。